

東京大学柏地区整備推進構想

柏地区構想検討ワーキンググループ

2015年3月4日

1. はじめにー全学における柏地区キャンパスの役割ー

柏地区キャンパスは、東京大学の21世紀における新たな学問の発展に向けた構想に基づき、本郷、駒場に次ぐ第3の主要キャンパスとして2000年より運用が開始された。その後、学問体系の根本的な組み替えをも視野に入れた学融合を指向するキャンパスとして様々な新しい取り組みが行われてきた。東京大学が2014年に策定したキャンパス計画大綱においては、「柏地区キャンパスは、近年の学問の急速な発展および社会状況の激変に対応する教育・研究の新たな展開の場であり、伝統的な学問体系および組織には納まりきらない基礎的課題群について、新たな学問領域の創造を通じて教育し、研究する（以下略）」とされている。また、柏地区内の3つのキャンパスについては、各々、「柏(I)キャンパスは、柏地区キャンパスにおける教育・研究の中核である。学融合という知的冒険と新たな学問フロンティアの創成を推進するために必要であるとともに、国際的研究拠点にふさわしい機能を備えたキャンパス空間の構築・整備を推進する。柏IIキャンパスは、現在、柏キャンパスにおける学生および研究者の日常の活動を支える運動・リフレッシュの場および学住近接の国際的生活拠点である。国際連携の一層の促進に向けた生活基盤の充実を図るため、日常生活を支えるアメニティ・利便性の向上を図る。また、サマースクール等の滞在型・短期集中型学習行事を可能とする学習環境を確保するなど、教育・研究活動の広がりを可能にする空間の構築・整備を推進する。柏の葉駅前のサテライト・キャンパスは、交通アクセスがよく、柏地区キャンパスの顔となる駅前の立地を最大限に活用した社会連携の拠点である。周辺施設と協働して都市環境の魅力向上に寄与するとともに、オープンイノベーションの拠点にふさわしい機能・空間を構築する。」と記されている。

平成26年3月の大学院教育検討会議において議論された大学院教育強化のアクションプランには、「①柏地区の研究所群のリソースを活用した大学院教育強化。大学院学生の地理的条件を配慮した学生支援や遠隔講義施設の拡充等。②新領域創成科学研究科の大学院教育の抜本的強化支援。特別WGを設け具体的施策を検討。」がアクションリストとして挙げられている。

このように、柏地区キャンパスには、大学院教育の強化・学部教育における多様な価値観醸成を念頭に置き、先端性・国際性・学住接近キャンパスの実現・地域社会との連携による大学機能の発揮、といった観点から全学の中で重要な役割を果たせるよう継続した努力が求められており、また、東京大学の未来の姿を先導する実験キャンパスとしての整備が必要となっている。

2. 柏地区キャンパス教育研究の理念

柏地区キャンパスには、独立研究科である大学院新領域創成科学研究科、国際高等研究所・附置研究所・センター群（以下研究所群と呼ぶ）に加え、東京大学の情報インフラ整備拠点としての柏図書館が配置されている。本キャンパスでは、その特徴に基づき、3つの教育研究の理念の実現を目指して活動を行っている。

2. 1. 世界最先端研究の推進と新しい学問領域の創造

柏地区キャンパスでは、主に研究所群において世界最先端の研究が進められている。そのさらなる推進に向けて、研究所群の現有リソースの活用、研究に関わる大型施設等の継続的な運用・整備を可能にするとともに、大学院新領域創成科学研究科との一層の連携促進を通して、学融合環境の先鋭化を推し進め、新しい学問領域の創造を目指す。

2. 2. 学住一体型の国際連携・卓越型国際教育研究拠点の形成

非英語圏国のトップ大学として、新しい国際的・学際的な教育研究の場を世界に提供する。そのために、学住一体化キャンパスを整備し、徹底した学力・研究力・国際力の涵養を行う環境を構築する。また、研究所群との連携により、世界最先端研究の場を活用する卓越大学院構想を実現する。このような環境を活かし、学部前期課程学生・国内外他大学の極めて優秀な学生を最先端研究に参画させることを通した国際エリート養成プログラムなども視野に入れる。

2. 3. 地域連携・社会連携推進による大学研究の社会実装

柏地区キャンパスでは、設立当初から、千葉県や柏市など地域との連携に基づく社会実験を実践してきた。その成果に基づき、学住一体型キャンパスの機能を活かしつつ、社会連携を通した大学研究の社会実装を目指す。これに加え、地域コミュニティ活動を始めた地域社会との連携を通した学生の力強い人格形成を促す。

3. 柏地区3キャンパスの機能分担と整備推進構想

上述の理念達成のためには、柏地区の各々のキャンパスの機能分担とそれに従った整備推進構想、並びに地域との協働に関する構想を策定する必要がある。それらは、以下のよう

3. 1. 柏メインキャンパス

世界最先端研究を実践する研究所群のリソースを活かした卓越大学院は、柏地区が東京大学の大学院教育改革に対して強く貢献できるものであり、その実現に向けて、これまで進めてきた柏地区の大学院教育における学融合の先鋭化も含め、全学の大学院教育の中での位置づけを明確にしつつ検討を進めることが必要である。それに合わせ、全世界から優秀な

研究者・学生を受け入れるための施設整備が必要となる。一方、学生コミュニティの構築という観点からは、学生・教員の交流が容易にできる場所として、学生会館の建設等、キャンパスアメニティの整備が必要である。特に、多様な学生が国内外から参集するキャンパスになるため、文化の多様性への配慮が特に重要となる。

世界最先端研究の実践のためには、継続的な大型施設の運用・整備が必要であり、各々の部局の将来構想に加え、学内部局・施設の新たな誘致も含め、柏地区キャンパス全体の連携を通じた整備を考慮することが必要となる。部局をまたいだスーパーコンピュータ拠点整備や、全学リサーチcommonsとしてのアーカイブ機能、オープンデータの蓄積から提供までができる人材養成機能も合わせ持つ柏図書館の整備、大型設備やキャンパスアメニティ施設の効率的配置を念頭に置いた北側用地・未取得地利用の具体化検討、等が早急に行うべき課題として挙げられる。

3. 2. 柏 II キャンパス

柏 II キャンパスには学住近接の東大国際学生村を創設する。世界最大の学融合拠点の生活基盤として、国内外の研究者と学生が集住し、社会生活から先端研究までの幅広い課題に異分野の人材が取り組むことを通し、世界中から優秀な学生・研究者が集い、切磋琢磨することを通し、最高水準の研究成果を生み出す環境を整備する。東大国際学生村は、学住一体の日本型カレッジ制を導入し、柏地区の教員、研究者らによる少人数の全人的総合教育を中核とした、学住一体のメリットを最大限に活用する新しい教育体制を構築するものである。

上記の教育研究体制を実現するために、柏 II キャンパスでは居住学生、教職員および家族滞在を含む海外研究者が快適に研究生生活を送ることのできる良質な住環境を提供する。その第一段階として、国際学生村の中核施設として、教育・宿泊・アメニティ施設が一体化した総合学寮棟を整備し、学生と滞在研究者との交流の拠点とする。総合学寮棟には、現在の柏ロッジを拡充し、セミナー室、図書室、食堂、ラウンジ、コミュニティ施設、ショップ・レストラン等商業施設を併設することによってキャンパスの生活基盤を提供する。

その後、多目的総合グラウンド、プール、トレーニング室等を備えた総合スポーツセンターを整備することによって、柏キャンパスのスポーツ環境を向上させると共に、生涯スポーツ、スポーツ医学、地域ケア等の拠点として地域社会との交流と協働を促進する。

3. 3. サテライト・キャンパス

フューチャーセンターがあるサテライト・キャンパスは、駅前という立地環境を活かし、社会連携の拠点としてオープンイノベーションの推進にふさわしい機能・空間を構築する。そこでは、最先端の情報エネルギー基盤が充実した実験都市柏の葉スマートシティなどを社会実験フィールドとして、まちづくりのための公・民・学連携拠点である UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha)を通じた社会連携を推進する。

3. 4. 事務サービスと生活インフラの国際化

国際キャンパスを支える事務体制の国際化を早急に構築することが必要である。柏地区キャンパスが国際キャンパスとして機能するために、留学生や海外からの研究者が快適に研究生を送れるため、入学試験やキャンパス内の各種手続き、生活支援等を英語で提供することとし、あわせて、地域との協働を通して、教育・交通・医療など都市サービスの国際対応を実現する。

3. 5. 地域との協働による国際キャンパスタウンの整備

つくばエクスプレス沿線で大規模開発が進む柏の葉エリアでは、県・市・大学が共同で「柏の葉国際キャンパス構想」を掲げ、公・民・学の連携拠点である UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha)がその推進役となって、国際学術研究都市・次世代環境都市づくりを展開している。その中で東京大学は、社会連携を通じた地域課題解決の実証的な試みを進めており、駅前のサテライト・キャンパスは、地域社会とのコミュニケーション拠点を目指している。一方、公共や民間の活動としては、学生や研究者の生活を支える医療・教育・公共サービスや居住機能の充実、並びに各機能の外国人対応も進められつつある。今後は、さらに公・民・学の連携を強化し、クリエイティブで質の高い居住環境の形成、あらゆる生活の場面における英語対応の強化、空港アクセスの強化や交通利便性の向上など、世界中から優秀な人材が集まる良質なキャンパス環境を地域ぐるみで実現することを目指す。

4. まとめ

東京大学キャンパス計画大綱が策定され、総合的教育改革が本格的に進められていく時期に当たり、本構想は、東京大学の未来の姿を先導する実験キャンパスとして、柏地区キャンパスの整備促進方策の構築に資することを念頭に置き、全学の合意を得ながらその具体的な施策を策定していくための基礎資料として取りまとめたものである。特に、柏地区の持つ特徴である先端性、国際性、社会連携をさらに展開し、卓越した大学院、新しい国際教育研究の場としての学住一体型国際キャンパス、実証的産学社会連携拠点の整備に向け、今後10年程度で実現する可能性を持った計画として示した。本構想が、全学的な改革の一翼を担い、その更なる展開にも寄与するものとする。